

出勤には、まだ時間があつた。

なんとなく足が向いたのは山内神社。

クスノキの大木に導かれて踏み入った森。

やがて正面に大きな鳥居。

うかつにも、私はすっかり忘れていた。

そう、ここが神の杜（もり）「鎮守の森」

だったということ！

鳥居をくぐると、玉砂利が森のてっぺんまで

澄んだ音をたてた。

拝殿の幔幕（まんまく）には柏の紋。

土佐の殿様、一豊公や容堂公を祀ってあるという。

柏手打って西の鳥居を抜ける。

すると、ふわーっと私の鼻をくすぐったのは、

カシヤクスノキ、ツバキなどの樹木たちが放つ

芽吹き匂い。

何千年も遠い遠い縄文、弥生のむかし、

西日本はこれら照葉樹林に覆われていたという。

そんな森に生をうけた私たちの祖先は、

豊かな恵みの森に、ずっと育まれてきたのだ。

もしもこの森に社がなかったら、どうだろう？

とっくのむかし、開発の餌食になって

消滅の運命を辿っていたに違いない。

この森が鎮守の森になって日は浅く、まだ百年。

だが、街のど真ん中で、これからも貴重な森の歴史を

絶えることなく刻んでゆくことだろう。

私はそんな森に拍手を送りたい！

私たちが暮らす高知県は、県土の84%が森に覆われています。
このみどり豊かな土地で、古くから人は四季折々の森の美しさを楽しみ、
山の幸を味わい、暮らしに木を取り入れ、子孫のために森を育てながら
生きてきました。

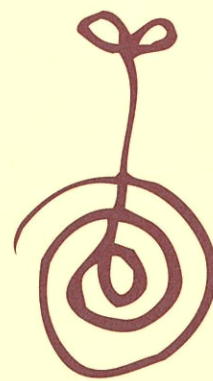
人と木の共生。この素晴らしい伝統を現代風にアレンジし、木を育て、
木に親しみ、木を生かす、「木の文化」として次の世代に伝えていきたい
と思います。

一部の山が荒れ、暮らしの中に木が少なくなってきた今だからこそ、
私たちは改めて、「木は私たちのパートナー」と訴えたいと思います。

高知の樹木たち その2 ● 山内神社の樹木

山内 神社の 樹木

森からはじまる



木の文化県
こうち